

核兵器のない世界のために

長崎から世界の人びとへの手紙

原水爆禁止 2008 年世界大会に参加した私たちは、被爆地・長崎から世界のすべての人びとに、この手紙をおくります。

「核兵器と人類は共存できない」という被爆者の叫びにもかかわらず、いまなお 2 万 6000 発もの核兵器が世界の平和と安全を脅かしています。広島・長崎の惨劇をくり返さないために、そして人類の生存のために、世界の人びとの連帯した行動で、核兵器のない世界を実現しなければなりません。

2010 年の核不拡散条約(NPT)再検討会議にむけて、核保有国には 2000 年 5 月の核兵器廃絶の「明確な約束」を実行することが求められています。核兵器廃絶のための国連決議が圧倒的多数で採択されるなど、この約束の実行を求める声は国際政治の場でも大勢となっています。かつて米国の軍事外交の中枢にいた人びとも、核兵器の廃絶以外に平和と安全を守る道はないと訴えています。

いまこそ決断すべきときです。私たちは、核保有国はじめすべての政府が核兵器禁止・廃絶条約の交渉をすみやかに開始するよう強くよびかけます。

平和を願うすべてのみなさん

私たちは、2010 年春の NPT 再検討会議にむけて、全世界的な行動キャンペーンを提唱します。「核兵器のない世界」を共通の目標に、世界各地ですすめられているさまざまな行動と連帯し、大きなうねりをつくりましょう。

私たちは、国際署名「核兵器のない世界を 2010 年核不拡散条約(NPT)再検討会議にむけて」の運動を開始しました。この署名への支持・協力をはじめ、原爆展など多彩な創意あふれる行動を世界中でくりひろげましょう。

長崎を最後の被爆地に！「核兵器のない平和で公正な世界」をめざし、ともに力を合わせましょう。

2008 年 8 月 9 日